

STARTUP DAY

2018

新入社員就活
アンケート
REPORT

SUMMARY

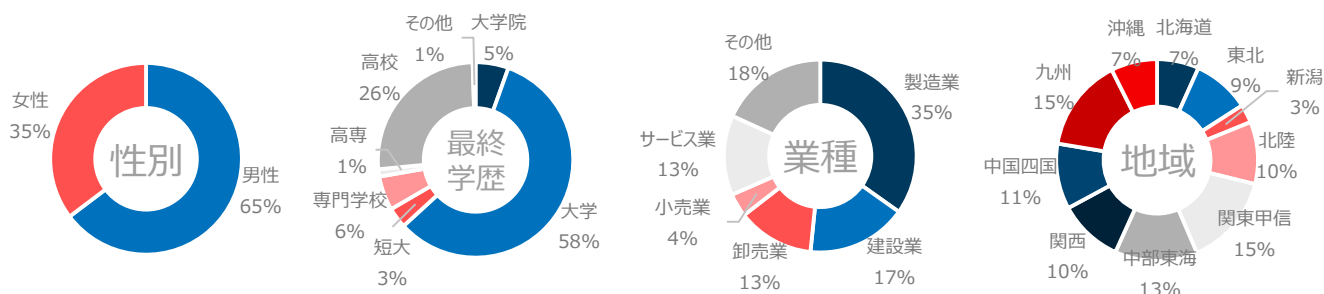
- ・ 働く目的は、夢や大義よりも、お金や自身の成長といった「個人寄り」のテーマが中心。
- ・ キャリアについては、出世よりも専門性を磨きたい。定年まで働き続けるとは限らない。
- ・ 職場に対しては、上司や同僚との良好な関係やサポートし合える環境を求める傾向が強い。

働く目的は、個人的な側面が強く、出世して人の面倒を見るよりも自分のスキルを磨きたい。しかし、周囲との関係には波風を立てたくないし、サポートを期待している。一見すると自立には程遠く感じられる2018年度の新入社員ですが、裏を返せば、個人の価値観やスキルアップと仕事上の目標が上手くリンクすれば、自ら前向きに取り組みます。さらには、職場の和も乱さず、周囲のサポートをすることにも抵抗がないといったプラスの側面も見られます。

新入社員個々の価値観やキャリアビジョンに向き合いながら、仕事との接点を探ることが重要です。

調査概要

- [調査目的] 新入社員に就職活動の経験を伺い、企業に今後の採用戦略の参考情報としてご提供する
[調査対象] 当社主催「新入社員教育実践セミナー」(2018年3~4月開催)に参加した新入社員2,030名
[エリア] 全国
[有効回答] 1,904名 (有効回答率 93.8%)



※グラフは小数点第2位以下切り捨てておりますので、合計が100%にならない場合がございます。予めご了承ください。(以降のページも同様です)



Index

就職活動全般について

Q1	入社した会社を知ったきっかけは何か	3
Q2	会社説明会に最も参加した時期はいつ頃か	4
Q3	会社説明会で知りたかったことは何か	5
Q4	会社説明会のプログラムで、あれば良かったと思う内容は何か	6
Q5	入社した会社を選んだ理由は何か	7
Q6	インターンシップに参加したか	8
Q7	インターンシップに参加した目的は何か	8

内定時期を振り返って

Q8	内定後から入社するまでで不安だったことは何か	9
Q9	内定後はどのようなフォローがあったか	10

入社するにあたって

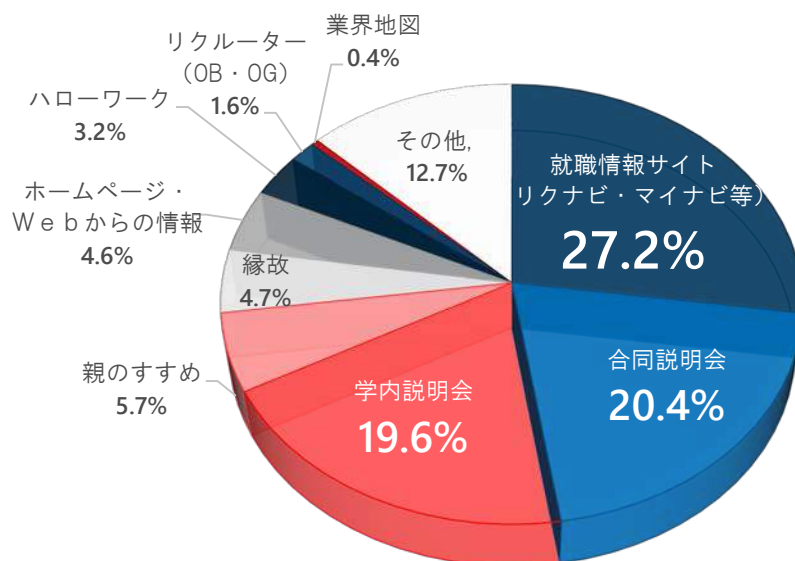
Q10	あなたの働く目的は何か	11
Q11	あなたの将来の目標、目指すポジションは何か	12
Q12	あなたは入社した会社に何年ぐらい在籍すると思うか	13
Q13	働きがいのある職場とは	14

就職活動全般について

「売り手市場」傾向の定着が見られる2018年の就活環境。
新入社員のアンケート結果から見た活動実態や意識などについてレポートします。

1 入社した会社を知ったきっかけ

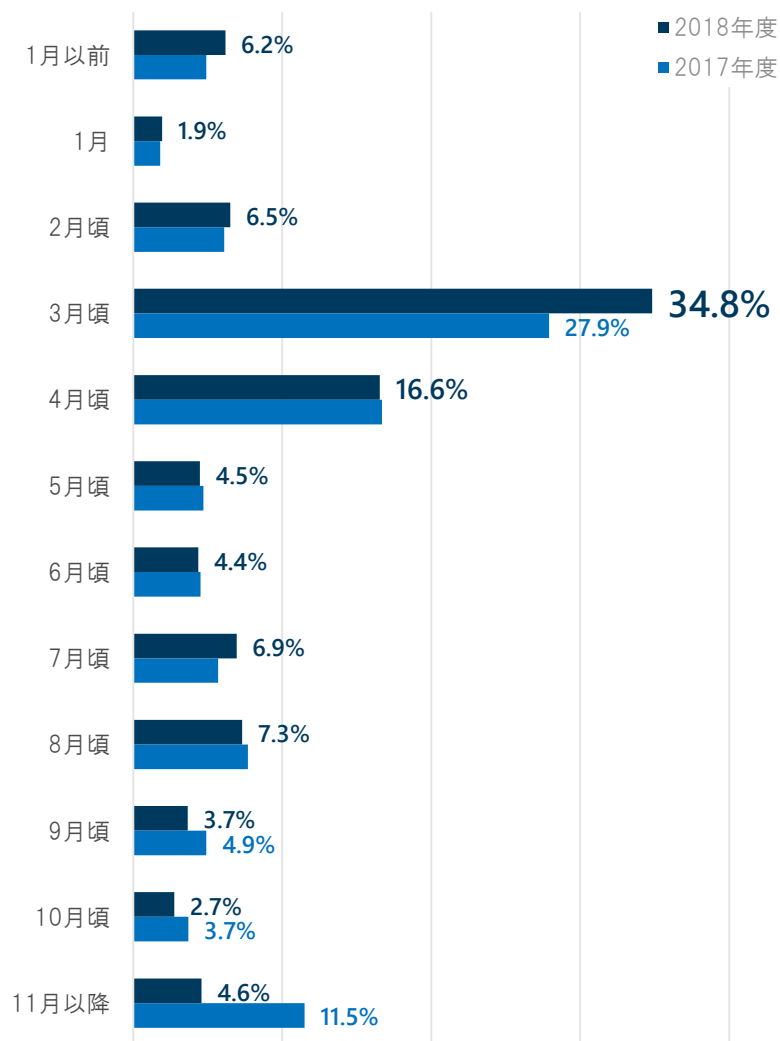
■ 就職活動のスタートとなる「入社した会社を知ったきっかけは何か？」という質問をしたところ、前年に続き「就職情報サイト（リクナビ・マイナビ等）」（27.2%）という回答が最も多く、次いで「合同説明会」（20.4%）、「学内説明会」（19.6%）と続く。前年と同様に就職情報サイトでの情報収集が主流となるが、学内説明会・合同説明会は就活生が直接話が聞ける場として、継続して活用されていることが分かる。



2

会社説明会に最も参加した時期

■ 会社説明会へ最も参加した時期については、「2017年3月頃」（34.8％）、次いで「2017年4月頃」（16.6％）が多く、約半数以上の就活生が3月、4月に集中して説明会へ参加している。昨年度の3月は27.9％であったのに対し、今年度は約8ポイント増加。3月の集中度が高まったといえる。



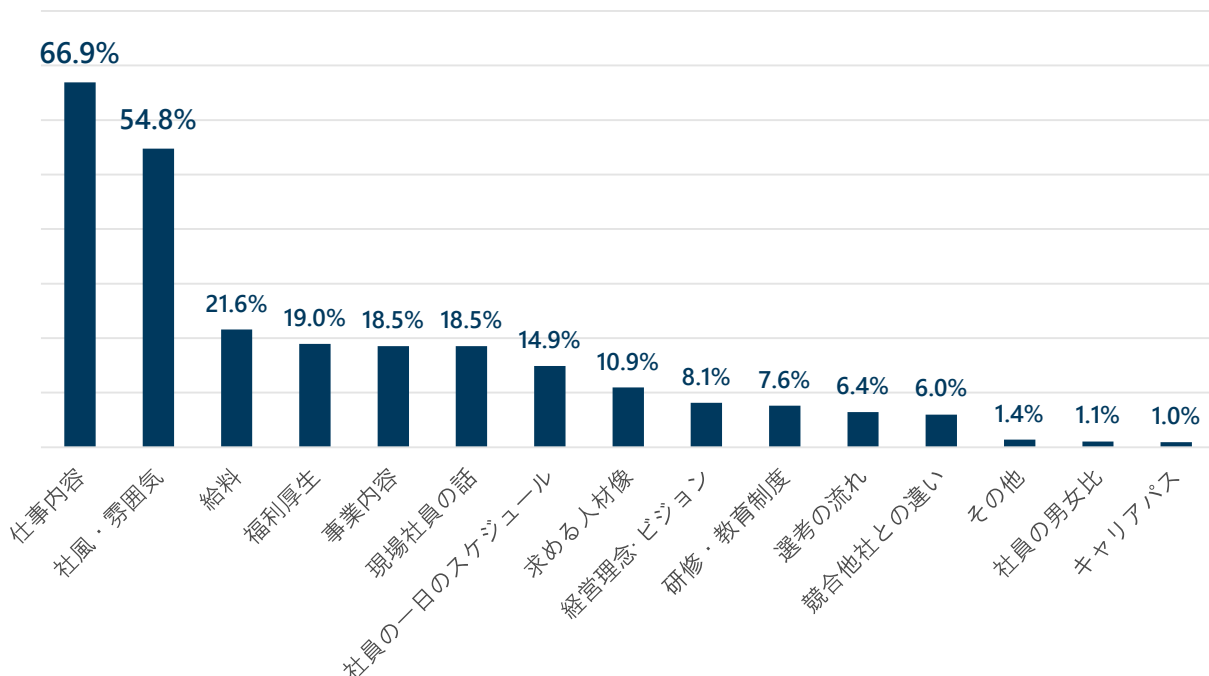
3

会社説明会で知りたかったこと

複数
回答可

会社説明会に対する学生の要望については下記の通り。企業と学生が直接接触できる貴重な機会なので、より有意義なものとするために、実際に参加した学生の声を参考にされてはどうだろうか。

- 「会社説明会で知りたかったことは何か？」という質問をしたところ、「仕事内容」（66.9%）という回答が最も多く、次いで「社風・雰囲気」（54.8%）。これまで「事業内容」や「現場社員の話」が上位だったが、「給料」「福利厚生」が変わって上位に続く。就活生自身の将来や収入・生活面の安定性に対する意識が高まっているとも読み取れる結果となった。
- 後述する「入社した会社を選んだ理由は何ですか？」という質問に対して「社風・職場の雰囲気がイメージできた」「仕事内容がイメージできた」という回答が多かったことを考えると、説明会で参加者が「仕事内容」「社風・雰囲気」を具体的にイメージできるように、わかりやすく伝えることが大きなポイントになるといえる。



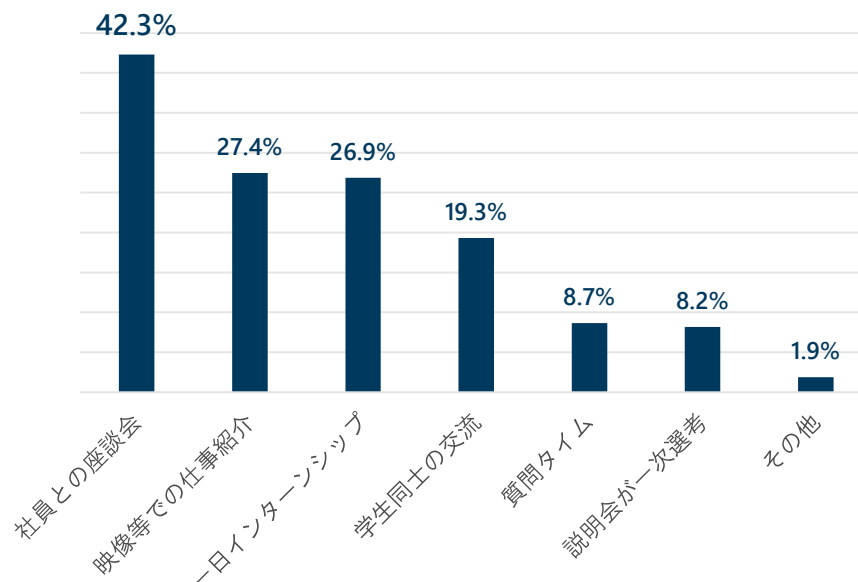
4

会社説明会のプログラムにあれば良かったと思う企画

複数
回答可

説明会に参加してみて、「会社説明会のプログラムにあったら良かったと思う企画は何か？」という質問に対する答えは次の通り。次回の会社説明会のプログラムの参考にされてはいかがであろうか。

- 上位に挙げたのは前回同様、「社員との座談会」（42.3%）、「映像等での仕事紹介」（27.4%）、「一日インターンシップ」（26.9%）などであった。
- 前述の「会社説明会で知りたかったことは何ですか？」という質問に対して、「仕事内容」「社風・雰囲気」という回答がそれぞれ半数を超えることを考えると、社員から直接話を聞ける「社員との座談会」や「映像での仕事紹介」、「一日インターンシップ」という回答が多いのもうなずける。
- 後述する「インターンシップに参加しましたか？」という質問に対して、6割以上が参加していない状況を考えると、具体的に仕事内容や社風・雰囲気を伝える上で、説明会の中にインターンシップ体験を盛り込んでみることも一つの手段であると考えられる。



5

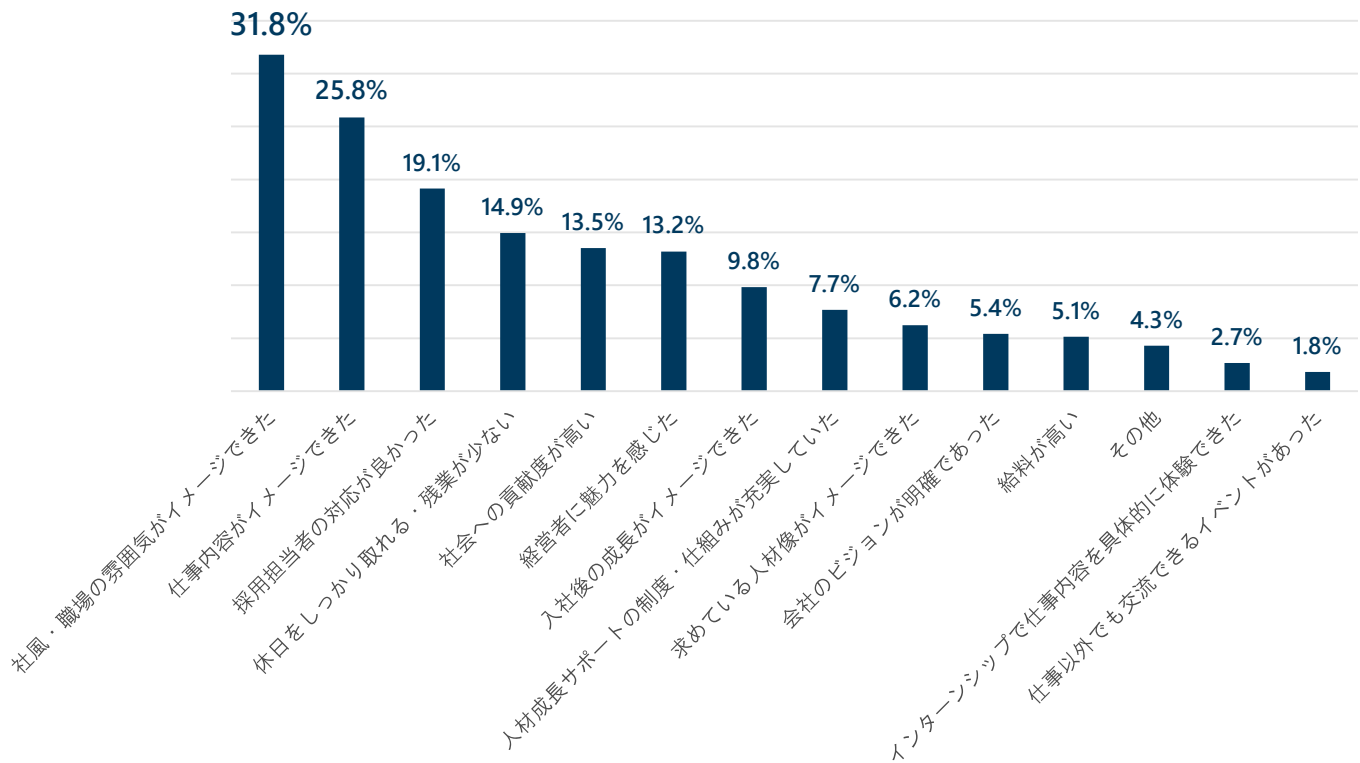
入社した会社を選んだ理由

複数
回答可

数ある会社の中から、最終的に入社したいと思われる理由とは何か？

採用活動のなかで、学生が重視しているポイントをしっかりと伝えられていたかどうか、来年の参考にしていきたい。

- 「入社した会社を選んだ理由は何か？」という質問については、「社風・職場の雰囲気がイメージできた」（31.8%）という回答が最も多く、次いで「仕事内容がイメージできた」（25.8%）という回答が多かった。前年の順位に変動はなく、仕事内容と社風・職場の雰囲気が重要なポイントとなる。

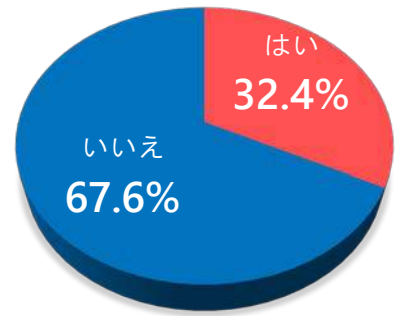


6

インターンシップへの参加の有無

企業のことを学生により理解してもらう機会として採用する企業も増えているインターンシップの活用度と参加目的について聞いた。

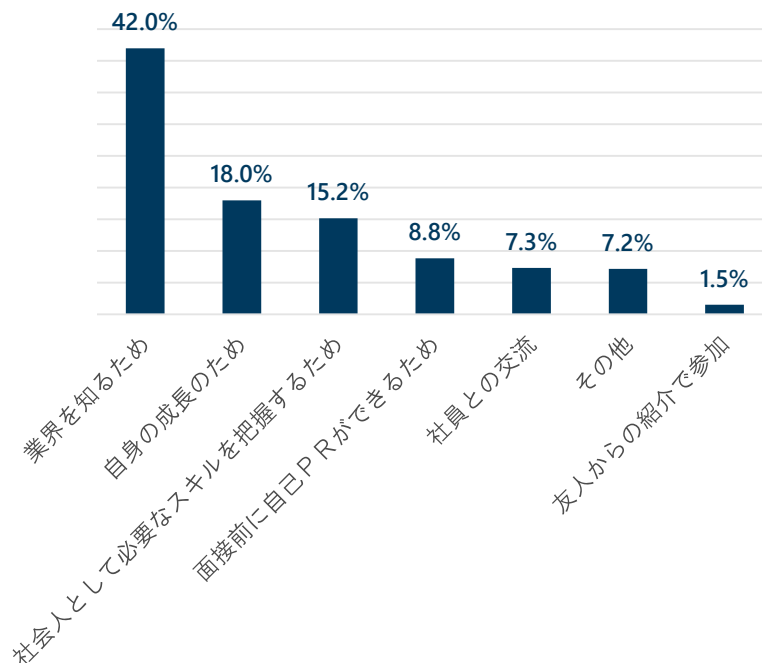
- 「（1日コースを除き）インターンシップに参加したか？」という質問に対し、「はい」という回答は32.4%となり、約3人に1人が活用している状況である。前年度（29.8%）に比べると2.6%増加しており、インターンシップの活用は今後も広がっていく可能性が高い。



7

インターンシップに参加した目的

- 上記質問で「はい」と回答した方を対象に、「インターンシップに参加した目的は何か？」を質問したところ、最も多い回答は「業界を知るため」（42.0%）であった。また、2番目、3番目にはそれぞれ「自身の成長のため」（18.0%）、「社会人として必要なスキルを把握するため」（15.2%）が挙げられており、情報収集の場として重視していることが分かった。



内定期間を振り返って

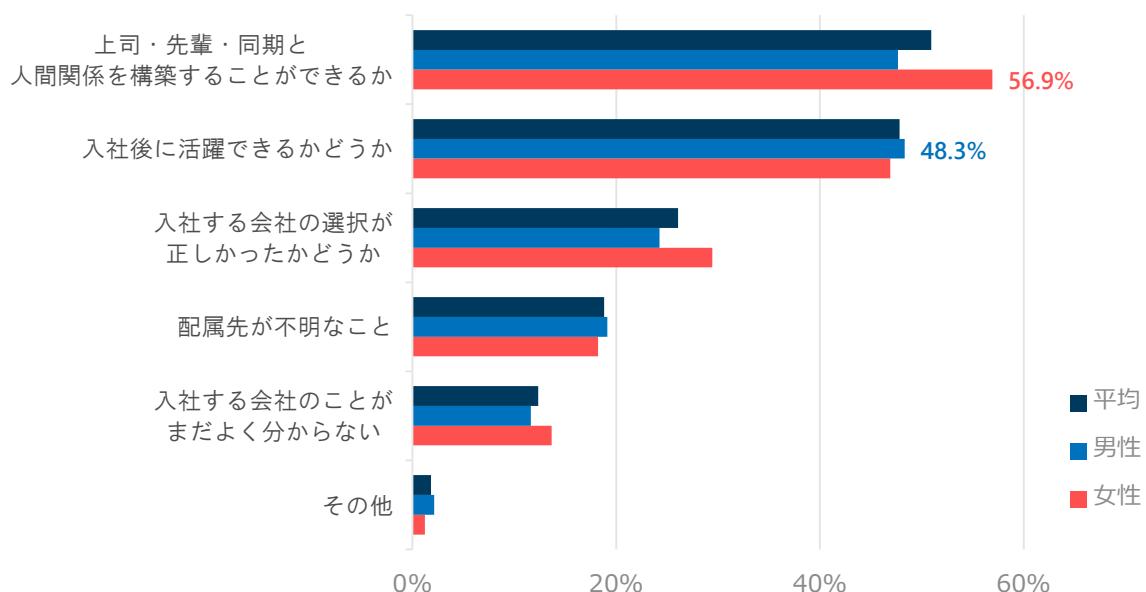
8

内定後から入社するまで不安だったこと

複数
回答可

内定を獲得し—安心するとともに、環境が大きく変わることに対する不安も生まれてくるため、入社までの間にフォローすることも重要となる。そこで、実際に学生が感じる不安との間にギャップがなかったか検討してみてもはどうだろうか。

- 「内定後から入社するまで不安だったことは何か？」について質問したところ、最も多かったのは、女性では「上司・先輩・同期と人間関係を構築することができるかどうか」（56.9%）、男性では「入社後に活躍できるかどうか」（48.3%）であった。
- いずれも回答数は多いものの、女性はより職場での人間関係に対する不安を感じ、男性は自身が活躍できるかどうか不安に感じるという結果となった。



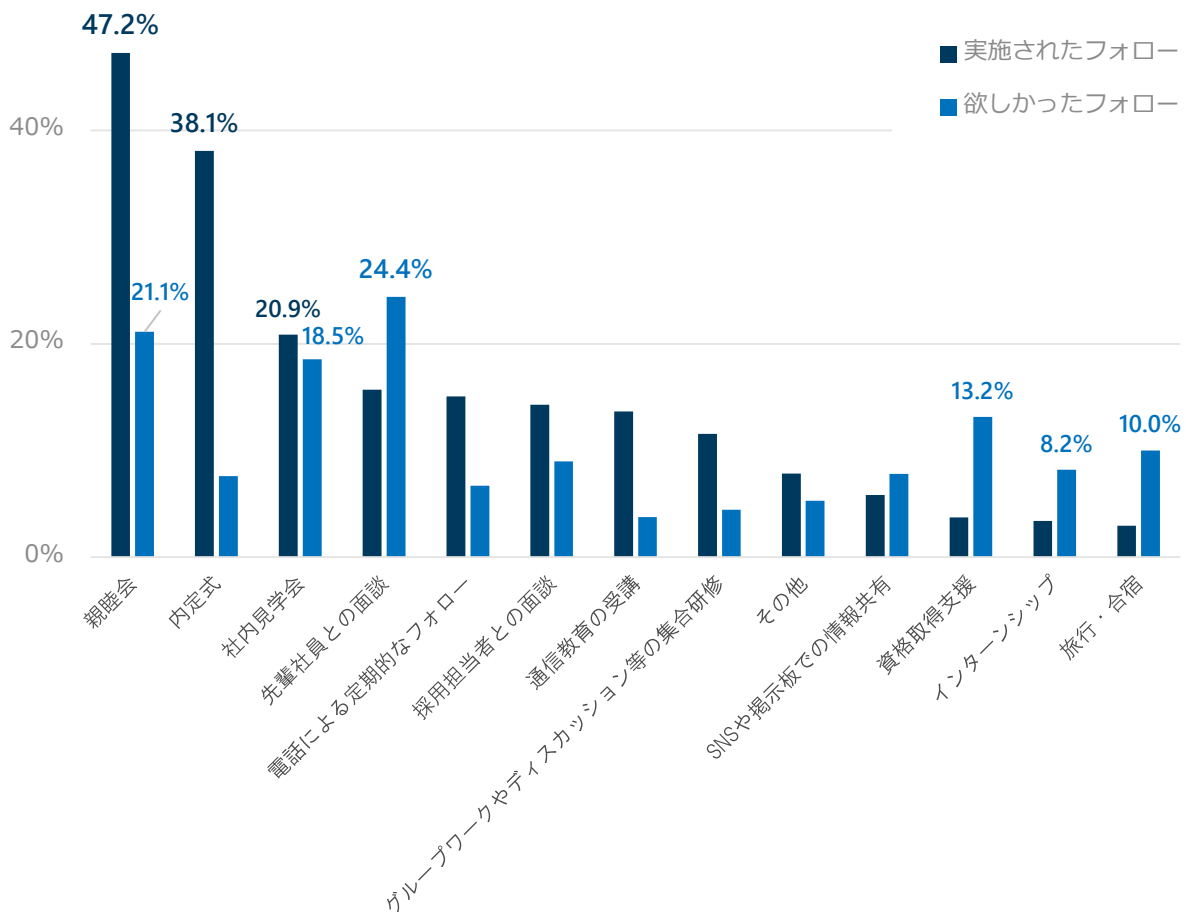
9

内定後のフォロー

複数
回答可

企業側が内定者へ行っているフォロー内容は、前述の学生が感じる「入社までの不安」に対し、合致した内容となっているのだろうか。

- 「内定後はどのようなフォローがあったか？」という質問をしたところ、最も多い回答は「親睦会」(47.2%)、次いで「内定式」(38.1%)であり、前年に続き全体行事が主体となっている。
- 前述の内定者が不安に感じる内容と照らし合わせて、内定者がどのようなフォローを求めているかを見てみると、「先輩社員との面談」「社内見学会」「資格取得支援」等、職場の雰囲気や入社までのスキルアップ支援を求める声が多いことがわかる。



入社するにあたって

10 働く目的

複数
回答可

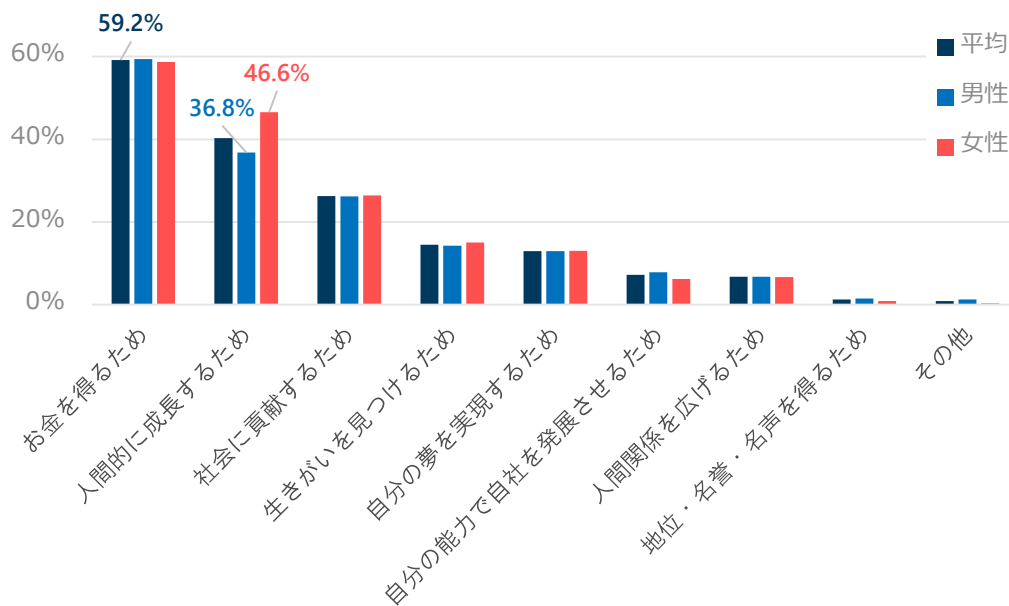
ジェネレーションギャップにより生じる意識・価値観のギャップ。新入社員が何に価値を見出し、何のために働こうとしているのかを知ることは、新入社員を受け入れる上で非常に重要である。そこで、「あなたにとって働く目的は何か？」という質問をした。

■最も回答が多かったのは男女とも「お金を得るため」（59.2%）であった。

過去の結果を見てみても回答数は増え続けている。好景気を知らない世代にとって、より高い給料で働くということが一番の目的となっている。

■2番目に多かった「人間的に成長するため」では女性（46.6%）、男性（36.8%）となり、成長意欲について女性の意識が高いことが伺える。

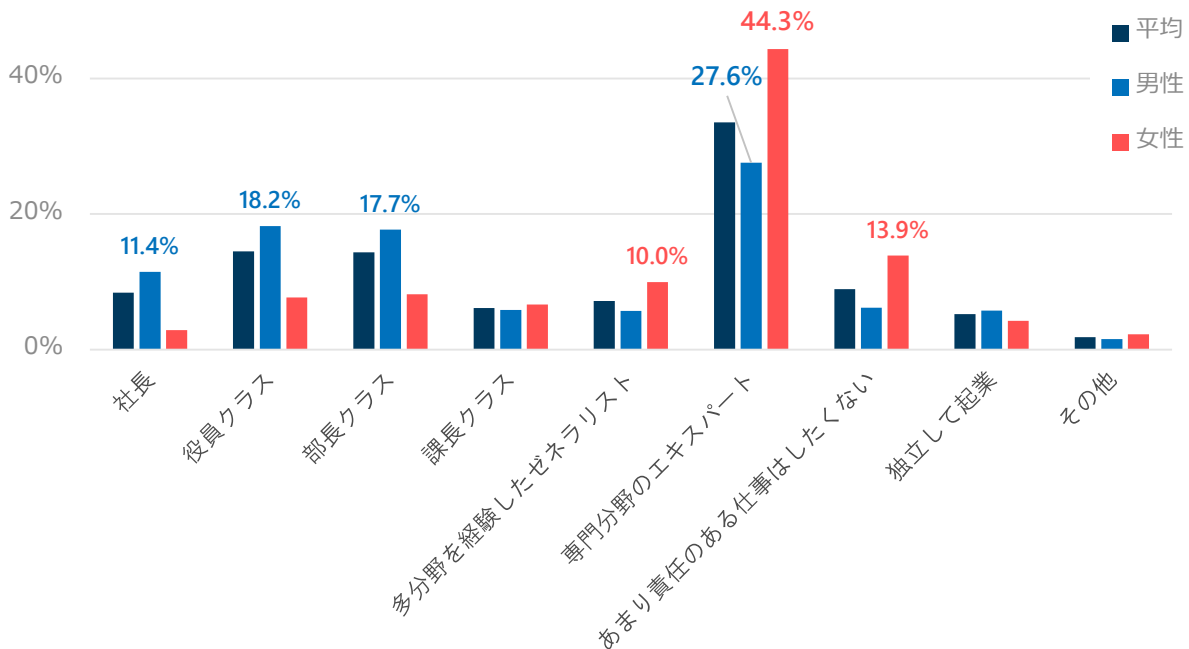
■ミレニアル世代にとって働くことの最大の目的は、「お金を得る」「人間的に成長する」である。自身の成長と昇給が結びつく人事制度も採用戦略で一つのキーポイントとなる。



11 将来の目標、目指すポジション

「将来の目標、目指すポジションは何か」について質問したところ、男女間で顕著な差が見られた。

- 「専門分野のエキスパート」は男女ともに最も多い回答であったが、女性（44.3%）、男性（27.6%）と大きく差が開き、女性では半数に迫る結果となった。
- 男性では、2番目に多い回答として「役員クラス」（18.2%）、次いで「部長クラス」（17.7%）「社長」（11.4%）となり、「出世」に対する意欲の高さが見られた。
- 一方、女性では、2番目に多い回答としては「あまり責任のある仕事はしたくない」（13.9%）、「多分野を経験したゼネラリスト」（10.0%）となり、男性に比べると、メンバーをサポートしていく役割を目指す傾向が強いことが分かる。
- 新入社員のキャリアプランを立てる上で、キャリアプランに対する意識の多様化、そして男女間による意識の違いをある程度考慮に入れておくことが必要である。



12 入社した会社に 何年くらい在籍すると思うか

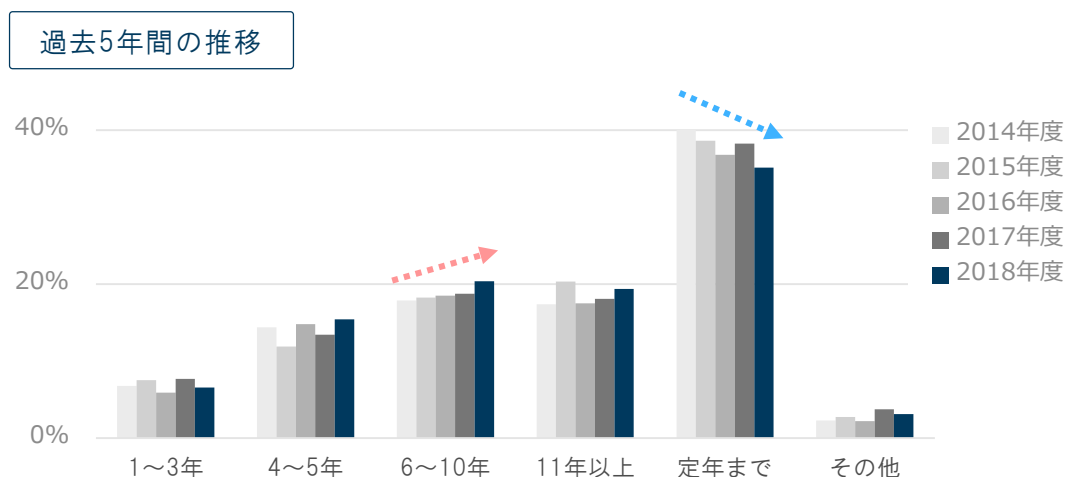
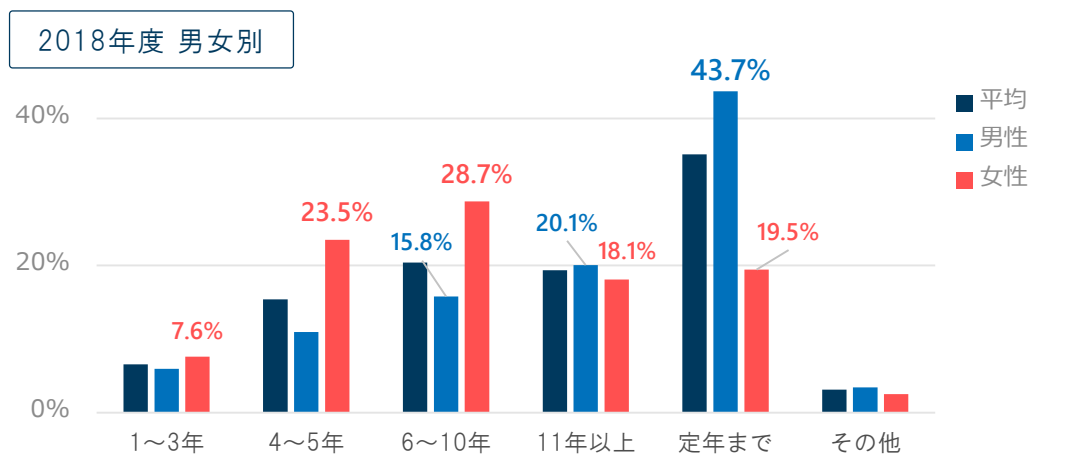
「採用された会社に何年くらい在籍すると思うか」という質問に対して、男女間で明確な差が見られた。

■ 全体では、「定年まで」（35.1%）が最も多く、次いで「6～10年」（20.4%）、「11年以上」（19.4%）と続く。

■ しかしながら、男女別で見ると、男性は「定年まで」（43.7%）が圧倒的に多く、半数近い数字となっている。次いで、「11年以上」（20.1%）、「6～10年」（15.8%）となり、長期勤務への意識が高いことが分かる。

■ 一方、女性は半数以上（59.9%）が10年以内の勤務を考えている。

■ 過去5年間で見てみると、「定年まで」が減少傾向。「6～10年」が増加傾向にある。



13

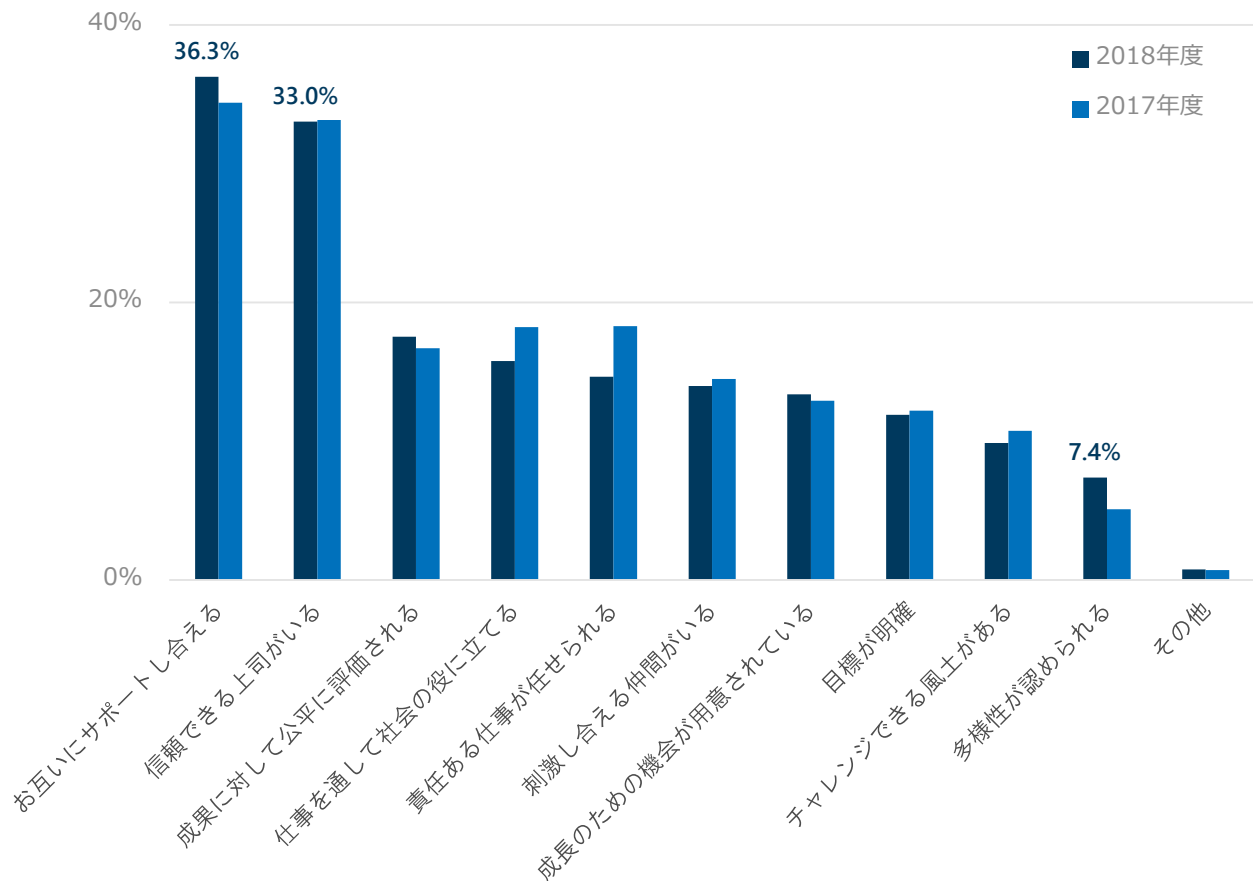
働きがいのある職場とは

複数
回答可

「働き方改革」が一般ワードとして浸透してきた中、新社会人として「働きがいのある職場」とはどのような職場だと考えるかについて質問した。

■ 全体では、「お互いにサポートし合える」（36.3%）、「信頼できる上司がいる」（33.0%）がそれぞれ3割を超える結果となった。

■ 昨年度の結果と比べると、「多様性が認められる」「お互いにサポートし合える」が回答数を増やしている。



社名	株式会社タナベ経営	事業内容	ドメイン(事業領域・業種別)コンサルティング、 ファンクション(組織・経営テーマ別)コンサルティング、 SPコンサルティング(プロモーション・ブランディング・デザイン・クリエイティブ・ダイアリー)、 人材開発コンサルティング(FCCアカデミー〈企業内大学〉設立・教育・研究会・セミナー)、 ステージアップコンサルティング、M&Aアライアンスコンサルティング、 金融機関・土業向けコンサルティング
ホームページアドレス	http://www.tanabekeiei.co.jp/	上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部
創業	1957年10月16日		
設立	1963年4月1日		
資本金	17億7,200万円		
代表者	代表取締役社長 若松孝彦		※2018年4月1日現在

お問合せは—

タナベ経営 戦略総合研究所 E-mail: soken@tanabekeiei.co.jp

大阪

〒532-0003 大阪市淀川区宮原3-3-41
TEL:06-7177-4008 FAX:06-7177-4028

東京

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-8-2 鉄鋼ビルディング9F
TEL:03-6758-0083 FAX:03-6758-0084